

議会だより つしま

No. 6

2019

11月

令和元年



私たちはこの笑顔を守ります

おっどん祭り「魚のつかみどり」

もくじ

- ★9月定例会あらし・委員会審査報告・・・2
- ★9月定例会一般質問・・・・・・・・・・・・3～5
- ★所管事務調査報告・・・・・・・・・・・・6～7
- ★議員研修及び行政視察・・・・・・・・・・・・7～8
- ★編集後記・・・・・・・・・・・・8

発行：対馬市議会

編集：対馬市議会広報編集特別委員会

〒817-1201 長崎県対馬市豊玉町仁位380番地

TEL 0920-58-1379 FAX 0920-58-1018

E-mail t_gikai@city-tsushima.jp



9月定例会あらまし

9月定例会は、9月11日から9月27日までの17日間の会期で開かれました。今定例会では、平成30年度一般会計歳入歳出決算ほか令和元年度一般会計補正予算等47件が提出され、慎重審議の結果、原案のとおり承認、可決、9件が閉会中の継続審査となりました。

市政一般質問は、8人が登壇し、活発な議論が展開されました。

◎主な議案

- ◎専決処分の承認を求めることについて承認予算案1件
- ◎平成30事業年度公益財団法人厳原愛育会経営状況報告についてなど報告7件
- ◎平成30年度対馬市一般会計歳入歳出決算の認定についてなど閉会中の継続審査9件
- ◎令和元年度対馬市一般会計補正予算(第3号)など補正予算案3件
- ◎消費税及び地方消費税の税率の改定に伴う関係条例の整理に関する条例についてなど条例改正案18件
- ◎対馬市コミュニティセンターの指定管理者の指定についてなど議決案3件
- ◎人権擁護委員候補者の推薦についてなど諮問案6件
- ◎その他、請願1件(閉会中の継続審査)、議決案2件

委員会審査報告

議会において、提出された議案等を慎重に審査するため、所管の常任委員会に付託することができま。各委員会は、付託された議案等を詳しく

審議し、議案等の可否を採決し、委員会としての意思を決定します。委員長は、審査報告書を議長に提出し、本会議において報告をします。今定例会においては次のとおり審査報告がされました。

■総務文教常任委員会

委員長 坂本 充弘

◎付託された案件(2件)

- ①令和元年度対馬市一般会計補正予算(第3号)
- ②日本海海戦(対馬沖海戦)戦没者慰霊祭関連事業の継続と戦争関連施設の保全並びにロシア連邦公人の招聘等を求める請願書(請願第1号)

◎審査内容

◎総務費、消防費、教育費に係る補正予算が計上され、電算システム改修委託料、殿崎公園公衆トイレ水道引込工事請負費、旧鴨居瀬保育所解体工事に係る事前調査委託料、防犯灯設置工事費、厳原本川洪水ハザードマップ作成委託料、浅海スクールバス購入費、上県町総合運動公園竣工認可測量委託料、各小学校の維持補修工事、消費税の増税に伴う博物館建設事業費の追加等について、審査を行いました。

なお、請願第1号については、継続審査としました。

■厚生常任委員会

委員長 伊原 徹

◎付託された案件(1件)

- ①令和元年度対馬市一般会計補正予算(第3号)
- ◎審査内容
- ◎総務費、民生費、衛生費に係る補正予算が

計上され、東里庁舎に係る建築設備及び防火設備定期調査委託料、学童保育等の対象児童数の増に伴う学習支援扶助費、斎場つじの苑及び浄化苑の屋外照明、自動ドア、エアコン等の修繕料の予算等について、審査を行いました。

また、継続費の補正として、厳美清華苑の汚水貯留槽の補修及び防食工事、処理能力を増やすための増量工事に係る施設改修事業について、審査を行いました。

■産業建設常任委員会

委員長 長郷 泰二

◎付託された案件(1件)

- ①令和元年度対馬市一般会計補正予算(第3号)

◎審査内容

◎農林水産業費、商工費、土木費、災害復旧費に係る補正予算が計上され、消費税引き上げによる指定管理施設の指定管理料、鶏肉加工処理施設の建設費補助金、ツシマジカ捕獲補助金、農林道・水路等の災害復旧に係る工事請負費、市道姫神灯台線の舗装、市道尾崎山線及び美女塚線の防護柵設置に伴う工事請負費、道路・河川の災害復旧に係る工事請負費の予算等について、審査を行いました。

12月定例会のお知らせ

令和元年第4回定例会は、12月3日(火)に開催を予定しています。

※日程は、11月29日に開催される議会運営委員会で協議された後、ケーブルテレビ、議会ホームページに掲載しますので、ご確認ください。

一般質問 ここが聞きたい

9月定例会一般質問 8人の議員が市政に対する一般質問を行いました。



一般質問とは

議員が議長の許可を得て、市長等に対し、市の行政全般について、事務の執行状況や将来の方針等についての所信や疑問を質し、報告や説明を求めるものです。

一般質問を行う場合は、通告書に要旨を記入し、事前に議長に提出します。

一般質問の時間は質問と答弁を合わせて50分以内としています。

握、交通安全確保を考慮し、待合椅子の設置に向けて順次進めていきたい。

◆国道沿いのバス停への待合椅子設置について
(伊原) 利用者の多い対馬南警察署から大船越までの国道沿いの待合椅子未設置箇所への設置のお考えは。

(市長) 関係機関と協議を行い、バス利用者の現状把握、交通安全確保を考慮し、待合椅子の設置に向けて順次進めていきたい。

◆対馬市博物館及び厳原港国内ターミナルビル維持管理について
(伊原) 歴史的展示物及び不特定多数の方々を利用する建物の維持管理業務の要綱策定は。

(市長) 厳原港国内ターミナルビルは、延べ床面積がビル管理法の適用を受けない施設で、管理委託を締結し、施設の巡回、清掃等を実施している。対馬市博物館は、ビル管理法の定めによる環境整備が適用される他、文化財を守るための環境保全管理をしたい。

◆小学校及び中学校の現状と今後の教育行政の基本方針について
(伊原) 平成元年から30年間の年平均合計で、小中学校の児童生徒数は、145名減少した。少子化に適応した学級数の適正規模及び配置に向けた基本方針及び計画は。

(教育長) 学校の統廃合は、令和2年度を一つの区切りとし、長期ビジョンでは、小学校9校・中学校8校が目安であるが、複式学級になっても教職員の研修や教育環境の充実を図りながら、できるだけ地域に存続させたい。

◆生ごみ対策について
(吉見) 今までの設備投資額と費用対効果は。

(市長) 対馬市一般廃棄物処理基本計画を作成し、24年度よりモデル的に事業を開始、設備投資額は1億7千8百万円、事業による昨年度の削減額は1千万円。

(吉見) 長崎県と福岡県において、生ごみの回収をしている市は。

(部長) 生ごみの回収を事業として取り組んでいる自治体は少ない。

(吉見) 生ごみ専用袋を作り、無料で配布のとこと、年間600万円かかる。家庭から出す生ごみ袋は全て有料(20円、60円)、この差はなにか。

◆公園内の遊具の充実化と管理及び子育て支援について
(吉見) 公園内の遊具の充実化と管理及び子育て支援については。

(市長) 対馬病院横の遊具は、県の施設であり、委託契約により市が管理している。遊具は劣化により腐食し、安全性が確保できないため、県が撤去の方向で検討。新たな遊具の設置は、高額な費用となるため、難しい状況。

(市長) 平成21年度から市内5カ所で、子育て支援センターを開設。利用者からは、楽しんで利用していると伺っている。今後においても、各センターの支援を子どもを応援するため取り組んでいく。

(吉見) 公園施設については、今屋敷公園の整備と宮谷の裏通りに新しくできた公園内に遊具の設置をお願いしたい。

◆生ごみ対策について
(吉見) 今までの設備投資額と費用対効果は。

(市長) 対馬市一般廃棄物処理基本計画を作成し、24年度よりモデル的に事業を開始、設備投資額は1億7千8百万円、事業による昨年度の削減額は1千万円。

(吉見) 長崎県と福岡県において、生ごみの回収をしている市は。

(部長) 生ごみの回収を事業として取り組んでいる自治体は少ない。

(吉見) 生ごみ専用袋を作り、無料で配布のとこと、年間600万円かかる。家庭から出す生ごみ袋は全て有料(20円、60円)、この差はなにか。

(市長) 目標の3千世帯の生ごみを回収するため、市としては、できることはやっていかねばと考え、当面は無料、ゆくゆくは有料化を考えている。

(吉見) 毎年、必要な経費は、委託費、維持管理費、袋代、合わせて約4200万円かかる。市民の大事な税金、無駄にしないで考え直すべき。



春田 新一議員

◆防災組織のあり方について

(春田) 市民の安全を守るため、災害時後の対応について、迅速な情報収集や伝達報告など関係機関の連携は取れているのか。

(市長) 地域安全防災室、各振興部、行政サービスセンター等の連携をとっている。

(春田) 災害発生時の避難所のトイレ洋式化の進捗状況について、本市には数多くの避難所が指定されているが、洋式にするにはどのような計画改修を進めていこうと考えているか。

(市長) 避難所に指定している小、中学校のトイレ改修を平成30年から7年計画で進めている。地区の避難所においては状況を調査し、優先順位を決めて整備する。

◆対馬クリーンセンターについて

(春田) 北部中継所、中部中継所の運営再編の考えはないか。特に一般家庭から直接中継所に持ち込みが出来る部分については各中継所から安神のセンターへ運搬される業者へ委託することとはできないか。

(市長) 対馬クリーンセンターは民間委託をしており、北部、中部においても、今後職員の退職も考えながら民間委託に向けて、昨年度から管理体制の構築に取り組んでいる。

◆観光振興策について

(春田) 国内観光客受け入れのための航路運賃の低廉化対策の見通しについて、本市では若者の島外流出に歯止めが利かず過疎化が進んでいる。国内旅行客誘致対策として国境離島新法に基づく交付金を活用して航空路運賃の低廉化はできないか。

(市長) 航路・空路とも離島住民並みに引き下げられるよう国等関係機関へ要望している。また、体験型観光なども含め準住民制度の要件拡大等、運賃の低廉化についても要望をしていきたい。



小島 徳重議員

◆韓国入観光客の激減に
対する対応策について

(小島) 国の支援を求め、県と一体となり、国内観光客の誘致等、強力な施策が必要。

(市長) 県と共に日本人観光客の誘致にこれまで以上に力を注ぐ。関係機関と一体になり、対馬市観光再生ビジョンを作成する。できることは全てやる。

◆少子化対策、子育て支援の充実について

(小島) ①合計特殊出生率の目標を現在の2・2より高く設定すべき。
②幼保無償化に合わせて副食費を無償化すべき。
③第3子以上を養育中の保護者への支援策を充実すべき。

(市長) ①総合計画、総合戦略の見直しに向け、検討中。不妊治療の新たな支援策を検討中。

②副食費の無償化を検討中。

③市独自の保育料の軽減策を継続する。

◆磯焼けの要因の一つである藻食性魚類の駆除促進について

(小島) ①藻食性魚類の捕獲に報奨金を。
②藻食性魚類の加工・商品化に奨励金を。

(市長) ①離島漁業再生支援交付金事業、水産多面的機能発揮対策事業により、過去3年間で捕獲量が7・6倍に伸びた。捕獲魚体数に応じた助成は補助事業に適さない。捕獲魚体数に応じた助成は補助事業に適さない。加工事業者への支援を考えたい。



小田 昭人議員

◆対馬市の財産管理について

(小田) 対馬市が誕生して15年が経過しているが、市が所有する土地、建物等に設置してある自動販売機の設置利用料が、統一されないのはなぜか。(利用料が3千円と1万円)

(市長) 公の施設の使用料という位置づけで自動販売機設置使用料を月額1万円で定めているが、それ以外の自動販売機の設置料については、行政財産の目的外使用許可として整理し、関係条例等に照らし、使用料を負担していただいている。

(小田) 統一した財産貸付料の条例改正はいつ提出するのか。

(市長) 公募による入札方式等、設置を希望する業者が複数いる場合等、機会の平等性を確保する上での検討事項として、新年度に向け、例規等を含め、整理を行う。

(小田) 条例改正した場合、適及適用は考えられないか。
(市長) 現在の自動販売機設置使用料は、正規の手続きを経て決定された条例事項であることから、適及適用すべき理由はないと考える。

◆市営住宅解体後の市営住宅建設計画について

(小田) 雞知中の町の市営住宅解体後の建設計画について。

(市長) 対馬市公営住宅等長寿命化計画は、本年度に基本設計に着手、次年度に実施設計、翌年度から3カ年計画で工事完成となっているが、国の予算割当も厳しく既に遅れており、建替に要する費用も十数億円となることから、事業実施予定は後年度にずれ込む可能性がある。

◆加志の対馬市猪鹿処理施設について

(小田) 滞在型観光施設としての効果は。

(市長) 民泊利用者が、観光コースの一環として、対馬のジビエ加工品の製造現場としての視察実績がある。

(小田) 施設の今後の事業展開は。

(市長) 解体技術、衛生管理の研修の場として、また、加工品の特産品化の研究を継続していく。更に、学校給食を通じて市民へ普及を図るとともに、出前体験学習など幅広く施設の有効活用を行い、ジビエの普及に取り組みしていきたい。



長郷 泰二議員

◆観光行政について

(長郷) 最近の日韓関係の悪化により、韓国人の観光客が減少している。現在までに市がとれた対策、今後の考え方についてお尋ねする。

(市長) 韓国内の旅行業者は、釜山事務所の調べでは休業状態にあり、本市に与える経済の影響は7月・8月の2カ月で約10億円で先の見えない状況にある。市内業者には、資金繰り・雇用に関して相談窓口を設け、対応をしていきたい。(長郷) この機会に国内旅行者に重点をおき、対馬から旅行商品を提案する着地型旅行システム構築の考えはないか。

(市長) 観光物産協会がその資格を有しているので、今後、支援の方向で検討していきたいと考えている。

(長郷) 最近テレビ放送された「最強の城・天空絶景の山城」で金田城が選ばれていた。出演されていた高橋英樹氏等を招待し、誘客に一役買っていたらどうか。

(市長) 前向きに発信ができるよう進めたい。

(長郷) スポーツ合宿、歴史文化等の誘致を行う部門の創設の考えはないか。

(市長) 交通費等の関係で断念せざるを得ない部分があるので、コンベンション開催支援及び開催助成制度の活用をお願いしたい。

◆指定管理制度について

(長郷) 今、検討されている木質バイオマスエネルギー導入計画でボイラーの更新が予定されているが、これを機に、市の温泉施設は、指定管理ではなく、企業による運営に移行してはどうか。また、対馬ふるさと伝承館の指定管理者である対馬市農業振興公社には多額の管理資金が助成されている。指定管理者として適当でないかと考えるがどうか。

(市長) 湯多里ランドについては、今後、民間への移行の可能性も調査検討したい。また、農業振興公社への運営費補助金は指定管理と切り離して考えるべきだと思っている。



大浦 孝司議員

◆韓国観光客の減少について

(大浦) 7月から減少傾向にあり、かなりのダメージを与えているが、その詳細について報告願いたい。また、観光客が減少していく

現実をこのまま黙認してよいのか。あるいは行政サイド等何か動きをすべきではないか。職業安定所の調べでは29人が失業されたとの報告もある。市主催の会議の折、経営資金は、県の中小企業向け緊急資金繰支援資金3千万円の上限、金利1・3%が適合されるところであるが、昨年又は今年投資された方は金融機関の審査が不利となり、借り入れができないうことが発生するがどうなるのか。

(市長) ケースバイケースで審査されるが、できるだけ可能な対応を金融機関にお願いした。また、市の貸付制度の枠の拡大を検討する。

(大浦) 市・県は、国内客誘致に力を入れているが、今回の事案は責任が重く、国会議員の現地調査団を対馬へ呼び、経営不振に至った島民の実態を正確に把握していただくこと、経営者との意見交換することを含め、全国で最も韓国観光の激減した事例に関心いただき、今後の改善に期待したい。また、比田勝では経営者の有志が集まり、国に對し対馬の現状を訴えたいと活動しており、支援が必要と考えている。

(市長) 今後も、韓国内の情勢にアンテナを張り、情報収集に努めながら、時期を見極めて、適時にキャンペーン等を実施し、加速的に客数が戻るよう対応したい。また、国内観光客の誘致強化に併せ、台湾や中国、英語圏など、別の国への観光客誘致活動も開始していきたい。島内観光関係事業者との意見交換を行い、関係省庁への訪問や国会議員に現状を報告し、要望活動を行っている。



波田 政和議員

◆各消防署における救急体制について

(波田) 救急活動は、市民の命に係る重要な役割であり、救急要請入電から現場到着までに要する時間を短縮する研究ができないか。例えば、入電後、先に地区名だけを聞き出動させる。その後、容態などを確認し、移動中の署員へ連絡する。また、各地域における目標到着時間の設定や、平均到着時間の周知、要請者へ到着する時間の連絡や到着までのアドバースなど、市民にやさしい対応をお願いしたい。

(市長) 119番を受けた時点から短時間で出動できるように、119番の受け方や出動する隊員に早期に出動に関する情報を流すための訓練などを行い、時間短縮に努めることとしている。

◆観光地整備を基本とした観光客誘致に向けた取り組みについて

(波田) 観光誘致の取り組みは、訪れた観光客へ感動を与えることが重要であり、各地に存在する観光地整備や歴史遺産の維持管理を徹底し、全国へ向けたPRにもっと力を入れるべきである。これまで要望を受けていた豆酏崎周辺の整備について、今後も継続的な整備をお願いしたい。また、歴史的遺産が多く存在する万松院においても、今以上に整備や維持管理を徹底していただきたい。観光地などの整備やPR活動の財源として、本年1月から始まった出国税を活用した国の予算獲得に向けた取り組みができないか。

(市長) 豆酏地区の地域づくり計画が作成された後、地域と一緒に環境整備に取り組みたい。万松院の周辺には、旧金石城庭園や徳恵姫の成婚記念碑、櫓門といった歴史的観光施設があり、現在建設中の博物館や朝鮮通信使の資料館が整備されることから、歴史観光ゾーンとしてPRしていきたい。

所管事務調査報告

常任委員会では、条例案その他議案の立案のためや問題点のある事務の改善を究明するため自主的にテーマを設定し、調査を行うことができます。調査結果については、報告書を議長に提出し、本会議において報告します。今定例会においては次のとおり調査報告がされました。

総務文教常任委員会

委員長 坂本 充弘

本委員会は、令和元年8月9日、次の2項目について所管事務調査を行いました。

まず、対馬博物館建設の進捗状況について、建設工事工期としては、平成27年度から令和2年度までの6カ年計画で、計画予算額が38億2千3百94万9千円。事業内容については、基本・実施設計委託費約1億7千万円。博物館本体工事は、平成29年12月から令和元年7月で完成し、工事費は約25億1千万円。同工事監理業務委託料は約5千4百万円。展示工事費は約3億8千万円で、平成29年12月から令和元年8月までで完了とのこと。第2工区の交流ゾーン建設工事、建設工事監理は、令和元年度から令和2年度までの計画で進めたいとのことでした。展示室は、イメージパスのようにすばらしい展示室となっており、収蔵庫は保管用に中性紙を使用しているとの説明を受けました。

次に、万松院の石垣等の状況について、現地を確認しながら説明を受けました。百雁木の石段の途中、右手石垣上部の石が落ちており、イノシシの被害だということでした。中段に下御

霊屋や中御霊屋、上段に義智公以降14人の藩主他が眠っている上御霊屋がある。周りの石垣は崩れたり動いたりし、玉垣が折れているところもありました。原因は、大雨による崩壊や地盤沈下ということでした。イノシシによる被害もあり、鳥獣対策により文化財を守ることにつながるといふ意見がありました。裏御霊屋には二代藩主義成公のご生母威徳院ほかの墓石が置かれている。現状は、樹木が覆い、雑草が生え、荒れ果てている状態でした。

現地調査終了後、それぞれの部署より補足説明を受けました。委員からは、博物館の第2工区についても予定通りに進むよう努力してほしいとの意見がありました。

宗家墓所の整備状況については、金石城跡や隣接する施設等と合わせ、対馬藩関連遺産群として保存活用計画、保存基本計画を策定後、裏御霊屋の整備も含め、第2期の整備に着手していく旨の説明を受けました。

委員からは、対馬藩主宗家墓所等保存整備委員会や万松院とも協議し、できるだけ早く整備に着手するよう、また、鳥獣対策もしていく必要があるとの意見がありました。



説明を受ける総務文教常任委員(対馬博物館)

厚生常任委員会

委員長 伊原 徹

本委員会は、令和元年8月30日に、特別養護老人ホームいづはらⅡ及びいづはら診療所の現状と課題について、現地調査を行いました。

特別養護老人ホームいづはらⅡは、施設の1階部分は短期入所40床、2階及び3階は、特養入所50床であり、現在、特養入所者41人、短期入所者30人という状況の中、施設長以下66人の職員、うち介護スタッフ40人で対応していました。

なお、特養に係る8床分が、従事する介護職員の不足により、利用できない状況であるとのことでした。特養の1日の平均入所利用状況は、開設時の平成29年度は約21人、平成30年度は約36人で、増加傾向にあります。介護職員の充足には暫く時間を要するとの説明を受けました。いづはら診療所は、平成28年6月に、常勤医師2人体制で開院しましたが、医師の退職等により、平成31年4月から、豊玉診療所医師及び非常勤医師による診療体制が構築されており、外来診療及び訪問診療、佐須、久根、今里及び豆酸診療所への定期的な出張診療が行われています。

現在、いづはら診療所は、毎週午後2回の休診がありますが、委員から、常勤医師の配置と利用者から求められる医療の充実を含め、休診のない診療体制及び診療単価など、患者数や診療収入の増加に努め、収支バランスの均衡に努めていく必要があるのではないかと意見がありました。

現地調査終了後、委員会を開催し、介護職員等の人材確保対策については、市内において、

介護人材育成確保対策地域連絡協議会や合同企業説明会などが開催されているが、応募者が少なく雇用につなげていない状況であることから市の専門窓口を強化し、県との協力体制を含めた迅速かつ継続した取り組みが必要であるとの意見がありました。

また、診療所における常勤医師の体制など、継続的な医療を展開する上では、収支のバランスも含め、本市の南部地域の介護や福祉・医療の包括的な役割を担うための拠点として、対馬病院との連携を密にして取り組んでほしいとの意見がありました。

その他、現在、特別養護老人ホームいづはらⅡ、いづはら診療所及び健康づくり推進部いきいき健康課が利用している旧長崎県対馬いづはら病院は、昭和63年3月の供用開始から31年が経過し、主に増築部分を中心として、入所施設や執務施設に雨漏りが発生し、その対策に苦慮している現状であります。これまで、雨漏り対策のための部分改修は行われていますが、有効な対策には至っていないことから、専門的な調査等を行い、改めて、雨漏り部分の解体を含めた抜本的な対策を講じる必要があるのではないかと意見がありました。



説明を受ける厚生常任委員(特養いづはらⅡ)

三 議員研修及び行政視察

地方議会改革に何が問われているのか

長崎市で長崎県市議会議員研修

令和元年8月20日(火)

長崎県市議会議長会主催で、長崎市の長崎ブリックホールにおいて、長崎県市議会議員研修会が開催されました。

県内各市の議員が参加し、講演を通じて知識を深めました。対馬市議会からは5人の議員が参加。「地方議会改革に何が問われているのか」について、法政大学副学長・常務理事の廣瀬克哉氏を講師に迎えました。廣瀬氏は、法政大学において行政学、自治体議会論、政策研究等を担当。「これまでの議会改革」新たな取組の開始から、これからの課題Ⅱどのように取り組むかが重要」と、議会改革の主眼をどこに置くかについて、議会の対市民コミュニケーション力の強化や対首長論点形成力の強化により、多様な視点があることのメリットを活かすべきと話されました。

また、「意思決定の効率性よりも大事なものの」として、市民の多様な声が届いていることが実感できること、論点が尽くされていると実感できること、賛否両面の指摘があった上で出た結論だから重んじるべき

という納得感など、議会とは何を使命としているのか、役割認識を含め、自覚をもつて取り組んでいくべきと説明されました。



長崎ブリックホールで行われた議員研修会

県議会議場の設備、

会議システムについて視察

長崎県議会で行行政視察

令和元年8月21日(水)

平成30年1月に新庁舎へ移転した長崎県議会の議会棟を訪問し、議場内の設備や会議システム等について視察しました。本市議会から4人の議員が視察。長崎県議会では、議場の傍聴席の座席は、旧議場よりも広く快適になり、前席の方と重ならないように設置してあるため場内が見やすくなっています。

また、場内に大型スクリーン(200インチ)を設置しており、発言者の様子をはっきりと見ることが出来ます。なお、大型スクリーンの他に、場内に80インチモニターを2台、傍聴席用に60インチモニターを2台設置しています。

その他、難聴者向けに、磁気ループアンテナを設置。貸与する補聴器により会議音声の聴取が可能となっています。

また、親子傍聴席が新たに設置され、乳幼児を連れての傍聴も可能となっています。なお、親子傍聴席は遮音性が保たれており、音が漏れないようになっています。

本会議・委員会については、現在、インターネットとYouTubeにより生中継及び録画中継しており、平成29年6月からマ

ルチデバイス(スマートフォン等)に対応開始しています。モニターの大型化や動画配信サイトを活用することで、「議会の見える化」、「県民に分かりやすい議会」として、今後の会議システムの参考にすることが出来ました。



長崎県議会議場

編集後記

この夏から韓国人観光客があつという間に島にいきなり増えました。まちを練り歩く姿が見えなくなり、観光バスに出会うこともなく車の混みもなくなってきました。

「韓国人観光客による経済効果は本市一般会計予算の4分の1に及ぶ」との市の分析をストリートに受け止めれば、大変なことになってしまいました。この韓国人観光客の激減対策が、今定例会の一つの焦点だつたと思います。いろいろな角度から緊急対策が盛り込まれました。今回の補正予算で、どう経済効果をもたらしていくか注視していく必要があります。

また今会期中、台風17号に襲われ甚大な被害を受けました。改めて、被災されました多くの皆さまにお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧を願っています。地域防災力の低下が叫ばれている中、災害が起こってから対策も大事ですが、議長の開会挨拶を引用しますが、そもそも「災害に遭いにくい」「災害を最小に食い止める」「災害に強いまちづくりを構築しなければなりません」。

今後とも御愛読をよろしくお願いいたします。

(文責…黒田昭雄)



広報編集特別委員会

【委員長】小島 徳重 【副委員長】黒田 昭雄
【委員】坂本 充弘・大浦 孝司